

跡見学園女子大学 外部評価報告書

令和5年9月16日

跡見学園女子大学 外部評価委員会

<p>(1) 総括</p>	<p>貴学は、大学の理念・目標の達成を目指して教育研究活動の充実に努め、大学の発展に向けて取り組んでいる。内部質保証については、学長及び執行部会議を内部質保証推進組織と位置付け、点検評価を推進するとともに、外部評価委員会を組織し、その妥当性を高めることにも努めている。2022年度の大学基準協会の認証評価では適合評価を受けているが、今後の自己点検評価のあり方について内部質保証委員会で検討した結果、認証評価において指摘を受けた項目を重点項目として、毎年度の評価項目を選定し、過度な負担とならない継続的な評価体制を目指した新たな取り組みを開始している。2023年度の自己点検評価では、大学基準協会の教育課程と教育成果に関わる評価基準4（評価項目③及び⑥）及び学生の受け入れに関わる評価基準5（評価項目②）について自己点検評価を行っている。</p> <p>基準4における教育課程に関する体系的編成（評価項目③）については、教育課程の編成・実施方針に基づいて各学位課程にふさわしい授業科目を設置し、教育課程を適正に編成・実施している。また、学習成果の把握と評価（評価項目⑥）については、令和3年度に学習成果の測定法として「全学教育・研究支援委員会」からの提案事項となっていた学修ポートフォリオを導入し、実施に向けた環境整備を開始している。「令和8年度実施教育課程検討委員会」を新たに昨年度設置し、時代の要請に応じたより適切な教育課程に改善するための検討プロセスを開始している。</p> <p>また基準5における学生募集や入学者選抜の運営体制の適切な整備と実施（評価項目②）については、入学試験の実施方針及び実施体制が確立し、オンラインによる入学者選抜に課題は残るものの概ね公正に入学者選抜を実施している。</p> <p>一方、改善すべき課題もいくつか見受けられる。自己点検評価の負担軽減は継続的な評価体制の実現には重要であるが、個別の自己点検・評価シートにおいて対象とする評価項目間の繋がりが十分には把握しにくいので、各基準の全体像の評価が困難になっている。また、内部質保証プロセスによって、全ての基準の課題発見から改善までのPDCAを回すことになるので、点検評価の際にはその情報は不可欠である。今後はこれらの点も考慮した評価項目の選定が望まれる。</p> <p>大学院教育課程における前回の外部評価委員会において指摘されていた点（コースワークとリサーチワークの区分が曖昧であること、卒業生アンケートなど）について、本年度の自己点検・評価シートへの記載がなく、改善状況が不明となっている。過去の指摘点の学内各部署における共有が、時間的余裕がなく不完全だったことによると思われるが、すみやかな情報共有と内部質保証委員会の適切な対応が望まれる。</p> <p>また、学部・研究科における学習成果の把握・評価について、把握方法に新たな工夫がみられるものの、新たな測定方法の開発及び活用について検討が十分とは言えない。学習成果の可視化は大学にとってより重要性が増すことになるので、積極的な対応を期待したい。</p>
---------------	--

(2) 長所	<p>学長の諮問により「令和8年度実施教育課程」の検討を行い、前期課程と後期課程の進級制度の緩和方針やオンラインを活用して両キャンパスからの履修を可能とする提案など、2キャンパス制による学生の履修上の不利益の解消に向けて、議論を開始している。このことは、貴学が教育課程の改善に真摯に取り組んでおり、内部質保証の観点から点検評価のPDCAサイクルを部分的にはあるが機能させている一例として評価できる。</p>
(3) 参考意見	<p>1) 内部質保証について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部質保証において、大学全体のサイクルと学位プログラムのサイクル、授業科目のサイクルの関連がわからないと、学内関係者が適切に現状を把握することができないので、関連を明確にすることが重要なのではないか。 ・学生の満足度と教育課程の改正は分けて考えた方がよい。教育課程の改正を主体的に行うのであれば、改正に伴う学生からのフィードバックを得るために、どの組織が何を行うのかあらかじめ内部質保証委員会が示しておく必要があるのではないか。 <p>2) 定員管理について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状で貴学の入学者は定員を大きく下回っている。高大連携も志願者獲得に繋がっていかないと意味がない。学部学科の定員を減らし、需要のある学部定員に移すことはできないのか。 <p>3) オンライン授業について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍を経て、大学はオンライン授業のやり方を学んだ。便宜的なやり方ではなく、新しい方法としてどうオンラインを活用するかが大学に求められている。新しい試みは意味があり、他大学にとっても大きな示唆を与えるので、是非とも検討して欲しい。 <p>4) 点検・評価シートの記載内容について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定されている課題改善について記載する場合、どの組織が責任を持って改善に取り組むかを明確にして記載してほしい。

跡見学園女子大学 外部評価委員会 開催状況

令和5年度

区分	開催日時・場所	主な議事	出席者
第1回	令和5年7月15日(土) 14:30~15:50 跡見学園女子大学 文京キャンパス2号館3階 M2308教室	<ul style="list-style-type: none">・学長挨拶・委員の紹介・会議の進め方について・自己点検・評価シートを用いた毎年度の自己点検・評価の説明・委員からの質疑意見	白幡委員長 大場委員 栗田委員 成澤委員 宗像委員

跡見学園女子大学 外部評価委員会 委員名簿

委員長：白幡晶（城西大学前学長、城西短期大学ビジネス総合学科副学長）

委員：大場昌子（日本女子大学文学部教授）

委員：栗田啓子（東京女子大学名誉教授）

委員：成澤廣修（文京区長）

委員：宗像和重（早稲田大学文学学術院教授）

（5名）